

えんど久子 県議会 一般質問で求める

さらに幅広くPCR等検査を

日本共産党は、国や大分県にコロナウイルスに関する緊急申し入れを行うなど、PCR検査の拡充を求めてきました。9月16日、県議会の一般質問で、えんど久子県議はこの問題について質問。

リスクの高い人は定期的に

「大分県でも医療機関、介護・福祉施設、保育園・学校などリスクが高い施設の職員などへ定期的なPCR等を行い、必要に応じて施設利用者全体を対象にしたPCR等検査が必要だ。保健所や衛生環境研究センターなどの正職員増など体制強化を」と、えんど久子県議。病床・宿泊療養施設の確保や医療機関への支援についても質問しました。

一日2000件の検査めざす

広瀬知事は「積極的なPCR検査によって感染の広がりを早期に収束させることができた。9月中には1日762件のPCR検査が可能になり、万一県内で感染震源地という状況が発生した場合でも、対応は十分可能である。医療機関・介護施設等では、常にモニタリングし発熱等の増加の兆候が見られた場合にはPCR検査を行う。議員と考えは同じだが、定期的なPCR検査は今のところ必要はない」という趣旨の答弁です。

入院は300床、宿泊療養施設は700床確保していると説明。今後、PCR検査と抗原検査を合わせて1日2000件を目指す、とのこと。

市町村にもっと情報を

「市町村に情報がほとんどなく、住民の不安解消のためにも、市町村ごとの検査数や陽性率、入院患者数等を開示してはどうか」とえんど県議。

県は「市町村ごとの検査数や陽性率は患者の行動歴などにより大きく変動し、感染の広がりを正しく反映するものではない。入院患者数などは、地域によっては個人の特定につながる恐れがあるため、県全体の数値の公表にとどめている」と答えました。



質問するえんど県議。左手前は広瀬知事。「フリーランスの方は持続化給付金を使えない場合もあり改善が必要」など、中小企業や事業者の支援充実も求めました。 20. 9. 16. 大分県議会

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

TEL・FAX 097-537-2344

No.45

2020.9.23.

日本共産党 えんど久子県議が質問

放課後児童クラブの

待遇改善を

えんど久子県議は、自身が3年程前まで学童保育で働いていたことに触れながら、9月16日、県議会的一般質問で放課後児童クラブの支援員の待遇改善を求めました。えんど県議は、保健所などの県職員や医療・福祉関係のみなさんのコロナ禍の努力に感謝を述べ、質問に入りました。

ほとんどが時給のパート的雇用

「コロナ禍で、医療、介護、障がい者福祉、保育、放課後児童クラブなどのケア労働はどんな時にもなくてはならない仕事だということが明らかになった。しかし、これらの仕事は、高い専門性を求められるにも関わらず日本では重視されず待遇が悪く人材確保が難しい。私が特に粗末に扱われていると感じているのが、放課後児童クラブの支援員だ。ほとんどがパート的な時給での雇用で、収入の面から若者の就職先になりえないのが実態で、長年の課題だ」と、えんど久子県議。

責任者などは安定した収入に

えんど久子県議は、「少なくとも1クラブに責任者を含む2名は安定した収入と待遇が得られるようにすることが必要だ。それが質の向上につながる。待遇改善を国に働きかけてほしい。また、県は市町村に対して、待遇改善をすすめる、運営主体としての役割をしっかりと果たすよう、強力で支援することが必要だ」と主張しました。



「コロナ禍で子ども達は不安を抱え、学びの格差が深刻だ。感染防止のためにも少人数学級に」と、えんど久子県議。一貫して少人数学級を求めています。

(詳しくは次号で)

2020. 9. 16.

県議会本会議場にて

処遇改善は重要な課題と答弁

福祉保健部長は「支援員の処遇改善は重要な課題だ」と答弁。キャリアアップの処遇改善を130クラブに行い、一人月32000円などの加算を助成したことや、国にも働きかけていることを説明。「市町村が行う支援員の処遇改善に向けた取り組みをしっかりと支援する」と答弁しました。

えんど県議は、大分県放課後児童クラブ連絡協議会会長のご意見や、連絡協議会がコロナ禍で実施したアンケートに保護者の感謝の声があふれていることを紹介し、重ねて待遇改善を求めました。今後ともみなさんと力をあわせてがんばります。